

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月1日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22520115

研究課題名（和文） 中国書画の表装に関する基礎的研究

研究課題名（英文） Fundamental Research on Mountings of Chinese Calligraphy and Painting

研究代表者

富田 淳 (TOMITA JUN)

独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館 学芸研究部 列品管理課長

研究者番号：20227622

研究成果の概要（和文）：

『装潢史』明・周嘉胄などの中国歴代の文献から、書画の表装に関する記載を収集・整理した。また、プリンストン大学付属美術館・香港中文大学文物館・京都国立博物館・大阪市立美術館・五島美術館・三井記念美術館・台東区立書道博物館等に所蔵される主として中国の書画を調査し、表装の諸データおよび画像データを収集した。

研究成果の概要（英文）：

Descriptions of mountings of calligraphy and paintings were collected and organized from a wide range of Chinese historical documents, including *Zhuang huang shi* by Zhou Jiazhou. In addition, surveys were carried out mainly on Chinese calligraphy and paintings preserved at the Princeton University Art Museum, Art Museum of the Chinese University of Hong Kong, Kyoto National Museum, Osaka City Museum of Fine Arts, The Gotoh Museum, Mitsui Memorial Museum, and Taito City Calligraphy Museum. As part of the surveys, data about the mountings was recorded and photographic images were taken.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：中国表装、中国書跡、中国絵画

## 1. 研究開始当初の背景

中国における書画の表装は、時代や地域に

よって特色があり、特に宮中における表装には厳密な格式があった。また、日本で改装さ

れた中国書画の表装にも、文化史的に大きな意味合いがある。そもそも改装をする場合にも、その時代ごとに修理に対する考え方が微妙に異なり、修理の指針にも差異がある。近年の修理においては、必ずしも修理前の形式に戻さず、新たな形式によって表装を施す例がままたり、場合によっては貴重なデータが失われる可能性がある。現時点で歴代の旧表装を整理し、その状態を記録しておくことは急務と考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究は、中国の諸文献から表装に関する記述を整理し、歴史的な様式の変遷を明らかにしつつ、日本および中国に収蔵される中国書画を実際に調査し、「中国表装」および「日本表装」の双方について、時代や地域ごとの様式や素材のデータを網羅的に収集・整理し、表装の変遷に関する体系的な調査研究を進めようとするものである。

## 3. 研究の方法

### ①文献資料の整理

『裝潢史』明・周嘉胄などの中国歴代の文献から表装に関する記載を収集・整理し、文献から知られる歴史的な様式の変遷を明らかにする。

### ②日中に現存する中国書画表装の調査・整理

内外の博物館・美術館に所蔵される中国書画を調査し、表装の諸データを収集するとともに、画像データを収集する。また、各コレクションの特色を念頭に置きながら、付属文書や箱書きについての情報も収集し、表装の基本データを整理する。

## 4. 研究成果

### ①文献資料の整理

『歴代名画記』唐・張彦遠、『書史』北宋・

米芾、『画史』北宋・米芾、『齊東野語』南宋・周密、『宋史官職史』元・脱脱等、『南村輟耕錄』元・陶宗儀、『裝潢史』明・周嘉胄、『清閼藏』明・張応文、『長物志』明・文震亨、『小山画譜』清・鄒一桂などから、書画の表装に関する記載を収集・整理した。

### ②日中に現存する中国書画表装の調査・整理

プリンストン大学付属美術館・香港中文大学文物館・京都国立博物館・大阪市立美術館・五島美術館・三井記念美術館・台東区立書道博物館・東京国立博物館等の内外の博物館・美術館に所蔵される中国書画の表装について調査を進め、諸データおよび画像を収集した。

#### (1)南北朝～唐時代の遺例

敦煌の藏経洞(第 17 窟)から発見された夥しい写本類は、北魏時代の 5 世紀から北宋時代の 10 世紀に及び、その多くが大英図書館・フランス国立図書館に収蔵される。これらの書誌学的データは、「敦煌写本の書法と料紙に関する調査研究」(研究代表者・赤尾栄慶、研究分担者・富田淳)の報告書に記載した通りである。今回はその関連作例として、

重要文化財・法句譬喻経卷第三残卷・前秦時代・甘露元年(359)、

持世第一経・宋時代・元嘉 26 年(449)、

仏説歎普賢経・齊時代・永明元年(483)、

重要文化財・仏説菩薩藏経卷第一残卷・北涼時代・承平 15 年(457)、

法華経・大智度論断簡・南北朝時代・5 世紀、

重要文化財・摩訶般若波羅蜜経卷第十四残卷・梁時代・天監 11 年(512)、

大品経卷第二十八残卷・南北朝時代・6 世紀、

法華経卷第三残卷・唐時代・上元 2 年(675)

などの諸作を調査し、2013年に東京国立博物館で開催した特別展「書聖王羲之」で一般に公開した。

## (2) 宋時代の遺例

いわゆる敦煌文献は、宋時代に何らかの理由によって蔵経洞に密封され、前世紀の初頭に発見されるまで長らく秘蔵されていたこと、また当時の写本は素紙の状態であったという特殊な状況下に伝えられた。これに対し、一般的な表装は、本紙と表装との収縮率が異なるため、卷子には縦皺が、掛幅には横皺が生じ、100年から150年に一度は改装する必要がある。そのため、宋時代のオリジナルの表装を伝える遺例は極めて少ない。

宋時代の表装を伝える稀有な遺例として、南宋時代の游似(?~1252)の蘭亭序コレクションがある。游似は、天子を補佐する最高の地位・右丞相となったことから、游丞相とよばれ、游似の蘭亭序コレクションは、游丞相の蘭亭百種とも称されている。

かつては100本からなる游似の蘭亭序コレクションは、各地に散在してしまい、その一斑が香港中文大学文物館・北京故宫博物院・上海図書館、シカゴフィールド自然史博物館、国内では京都国立博物館および個人などに分蔵されている。

游似の蘭亭序コレクションの特徴には、

- ・ 作品に十干と一から十の数字を組み合わせて、百種の整理記号を付していること。
- ・ 蘭亭序の拓本の前後には、雲藍紙などと呼ばれる藍色の紙を用いていること。
- ・ 拓本の末尾に接する浅黄色の紙の上には、游似が自ら入手の経緯などを章草風の達筆で記し、游似の所蔵印を押していること。
- ・ 蘭亭序の拓本の後ろには、游似おかかえの装丁師であった趙孟林の印「趙氏孟林」(白文方印)を押していること。

などが指摘できる。

京都国立博物館に所蔵される玉泉本蘭亭序には、清時代の孔広陶の書付があり、これを整理することで、整理記号のある作品15本、整理記号のない作品15本、都合30本の作品の存在が明らかとなった。詳細は下記の雑誌論文③を参照されたい。

京都国立博物館・香港中文大学文物館・個人の所蔵作品は、2011年に東京国立博物館で開催した「拓本とその流転」や、2013年に東京国立博物館で開催した特別展「書聖王羲之」で一般に公開した。

## (3) 明時代の遺例

明時代のオリジナルの表装を伝える遺例も比較的少ない。一例を挙げると、上海博物館の所蔵する元時代の倪瓚・漁庄秋霽図軸は、表装の上に明時代の董其昌(1555~1636)の識語が残されており、当時のオリジナルの表装を伝える貴重な作例である。

## (4) 清時代の遺例

乾隆の内府に所蔵されていた書画は、『石渠宝笈』などの文献に著録されている。当時は所蔵品の点検のたびに、種々の印を押していたことが知られているが、今回の調査によって、作品の等級にあわせた表装を施し、巻緒や包裂などにも、一定の格式があったことが確認できた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

① 富田 淳、李宗瀚コレクションについて、書学書道史論叢 2011、萱原書房、査読無、

2011、pp.393-422

- ② 富田 淳、華夏と安国、拓本とその流転、財団法人台東区芸術文化財団、査読無、2011、pp.54-57
- ③ 富田 淳、游丞相蔵玉泉本蘭亭序について～游似の蘭亭序コレクション～、拓本とその流転、財団法人台東区芸術文化財団、2011、pp.58-60
- ④ 富田 淳、吳昌碩と長尾雨山」、吳昌碩の書・画・印、財団法人台東区芸術文化財団、2011、pp.54-58
- ⑤ 富田 淳、宋元時代の書に寄せて、北京故宮博物院 200 選、東京国立博物館、査読無、2012、pp.25-29
- ⑥ 富田 淳、王羲之の生涯、書聖王羲之、東京国立博物館、査読無、2013、pp.8-23

[学会発表] (計 2 件)

- ① 富田 淳、槐安居コレクションと聴氷閣コレクションー高島菊次郎氏と三井高堅氏ー、2011、泉屋博古館 (京都)、関西中国書画コレクション研究会
- ② 富田 淳、趙孟頫蘭亭十三跋小考一焼残時期について一」、2011、北京故宮博物院 (中国)

[図書] (計 1 件)

島谷弘幸、富田 淳、恵美千鶴子、鍋島稲子、もっと知りたい王羲之、東京書籍、2013、pp.1-79。

6. 研究組織

(1)研究代表者

富田 淳 (TOMITA JUN)

独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館 学芸研究部 列品管理課長

研究者番号：20227622